

英語以外の外国語担当 非常勤講師のコロナ対応 (大学、高校、中学)

柴田 まり子 (文化学園大学、東洋英和女学院大学、カリタス女子中高)
西部 由里子 (慶應義塾大学) 橋本享子 (聖ドミニコ学園中高)
各務奈緒子 (奈良女子大学、奈良大学、奈良県立国際高校)

発表者 東洋大学 講師
(一社) 日本外国語教育推進機構JACTFL 理事長

山崎吉朗

今日の内容

- 情報共有メーリングリスト
 - 作成の経緯
 - 成果
- 授業内容、授業方法
 - 概観
 - 個々の講師
- サポート 試験、成績評価 苦勞した点
 - 苦勞した点

担当内容

	大学	高校	中学	授業種類	上級	中級	初級
A講師	2	1	1	4	1		3
B講師	2	1		4		1	3
C講師	1			4	1		3
D講師		1		2	1		1

メーリングリスト作成、運用

- 開設日
 - 4月20日
 - 駆け込み寺の設置
- 書き込み数
 - 現在（11月19日）まで735件（月平均100件以上）
- 開設の目的
 - シンポジウム等（本シンポジウムを含む）の情報提供
 - オンライン授業の業者情報
 - オンライン授業の方法についての指導
 - 互いの情報交換

メーリングリストで役だったこと

・ 情報収集の宝庫

情報提供がほとんどない状態（他の教員も同じような状態）だったので、MLで情報や講習のお知らせを受け取り、それに参加、情報収集が出来たことで、安心して授業準備を進めることができた。

・ 情報共有で繋がり

週に1、2回勤務の非常勤は、どうしても他の教員との繋がりが希薄になりがちだが、このMLを介し、他校の取り組みや実施状況などの情報共有が出来たので、**孤立せずに頑張れた。**

・ 寄りかけられるコミュニティがあることの**安心感**

・ 安心して質問、意見交換、情報交換ができ、**皆で頑張ろう、という連帯感が生まれた。**

・ **このMLがなければ授業は成立しない**と思った

・ 多言語、様々な教育機関（小学校から大学、フランスの教育など）の取り組みを知る機会

・ 多様な現場から発信された情報に接することで、**新しいアイデアが浮かぶ**ことが多かった。

非常勤講師が、情報不足の中、個人で模索せざるを得なかったことがわかる本来、学校側で設置する事だったのかと思われる。

授業内容 授業方法

	授業方法	配布資料	LMS等	web会議	
A大学	オンデマンド（資料配付）	資料、課題、授業アンケート	Google Classroom Google Slide Google Form	3回のみzoomで自由参加	A講師
B大学	リアルタイム オンデマンド（資料配付）	授業資料、課題、授業アンケート	Google Classroom	zoom	A講師
C大学	オンデマンド（資料配付）	PPT音声付き教材 Wordプリント（書き込み用）	大学独自		B講師
D大学	リアルタイム オンデマンド（資料配付）	PPT音声動画 PPTのPDFと音声 課題	Manaba Folio youtube	zoom	C講師
E大学	リアルタイム オンデマンド（資料配付）	PPT音声動画 PPTのPDFと音声 課題	Google Classroom	zoom	C講師
A高校中学	リアルタイム オンデマンド（資料配付）	自作プリント、資料、課題などを随時配信、 回収	Google Classroom	zoom	A講師
B高校	対面授業（開始は6月3日）				C講師
C高校	オンデマンド（資料配付） リアルタイム 対面授業	課題、解答、解説	Google Classroom	Teams	D講師

学校名	授業方法	配布資料	LMS等	web会議	担当者
A大学	オンデマンド(資料配付)	資料、課題、授業アンケート	Google Classroom Google Slide Google Form	3回のみzoomで自由参加	A講師
B大学	リアルタイム オンデマンド(資料配付)	授業資料、課題、授業アンケート	Google Classroom	zoom	A講師
A高校 中学	リアルタイム オンデマンド(資料配付)	自作プリント、資料、課題などを随時配信、回収	Google Classroom	zoom	A講師
C大学	オンデマンド(資料配付)	PPT音声付き教材 Wordプリント(書き込み用)	大学独自		B講師
D大学	リアルタイム オンデマンド(資料配付)	PPT音声動画 PPTのPDFと音声 課題	Manaba Folio youtube	zoom	C講師
E大学	リアルタイム オンデマンド(資料配付)	PPT音声動画 PPTのPDFと音声 課題	Google Classroom	zoom	C講師
B高校	対面授業(開始は6月3日)				C講師
C高校	オンデマンド(資料配付) リアルタイム 対面授業	課題、解答、解説	Google Classroom	Teams	D講師

	前期開始	後期開始	対面可開始	対面の条件
--	------	------	-------	-------

A大学	5月11日	10月1日		
B大学	5月13日	9月14日		
C大学	4月30日	10月1日	10月1日	条件はなし 教員に一任
D大学	5月11日	10月5日	10月5日	条件はなし 教員に一任
E大学	5月13日	9月23日	9月23日	条件はなし 教員に一任
A高校 中学	4月13日	8月26日	7月6日	学校全体
B高校	6月3日	9月9日	6月3日	学校全体
C高校	5月18日	8月24日	6月2日	分散登校→学校全体

A 講師担当 (A大学、B大学)

	人数	授業方法
A大学	47名	<p>オンデマンド方式 (資料配布型)</p> <ul style="list-style-type: none">・ Google Classroom から、資料、課題、授業アンケート、確認テストを配布、回収・ 資料は Google Slide に教科書付属の音声や映像を添付し、教科書を文章で解説、学習の順番や指示を提示・ 課題は毎回提出(手書き→写真添付) コメントを付けて返却・ Google Forms での授業アンケートや確認テスト・ 3回のみ、授業時間内30分を使って、Zoomでの自由参加型リアルタイム授業を実施 (発音練習や質問に答える)
B大学	17名	<p>リアルタイム方式 (双方向型)</p> <ul style="list-style-type: none">・ Zoom を使用し、90分間の授業を実施 (カメラは教師on、学生off)・ Google Classroomから授業資料、課題、授業アンケートを配布、回収・ 課題は毎回提出 (Word, Google document, 手書きなど) 採点をして返却

A 講師担当 (A高校)

	人数	授業方法
A高校	12名	<p>リアルタイム方式 (双方向型)</p> <ul style="list-style-type: none">・ Zoomを使用し、40分間の授業を実施 (普段の授業は45分だが生徒の負担を考えて短縮) カメラは教師、生徒共にon、共有画面やホワイトボードを多用・ Google Classroomから、自作プリント、資料、課題などを随時配信、回収 (年度初めに一度のみ郵送可)・ 前期中間試験は高3のみ、教室での対面で実施。7月から登校開始、対面に切り替え授業、前期期末試験実施・ 予定していた年間計画より2週間延期で授業実施・ 後期は年間計画1週間程早く開始。普段通りの対面授業実施
A中学	20名	<p>リアルタイム方式 (双方向型)</p> <ul style="list-style-type: none">・ Zoomを使用し、40分間の授業を実施 (普段の授業は45分だが生徒の負担を考えて短縮) カメラは教師、生徒共にon、共有画面やホワイトボードを多用・ Google Classroomから、自作プリント、資料、課題などを随時配信、回収 (年度初めに一度のみ郵送可)・ 前期中間試験は実施せず。7月から対面授業開始、前期期末試験のみの実施・ 予定していた年間計画より2週間延期で授業実施・ 後期は年間計画1週間程早く開始。普段通りの対面授業実施

B講師担当 (C大学)

	授業内容	人数	授業方法
C大学	1年初級（文法） 通年授業 週3回（文法2コマ+会話1コマ）の授業の1回を担当 教科書：『ル・フランセ』（白水社）	20名	オンデマンド方式（1コマ90分の学習時間を想定） 初学者が安心して、無理なく継続的に勉強できることを重視 PPT音声付教材（20分程度）とWordプリント（書き込み用）を大学独自のLMSを通じて配信・配布 課題は毎回提出（手書き→写真添付） 添削はせず、次の授業の答え合わせ時にポイントを説明 秋学期は、オンデマンド中心だが、対面授業やzoom授業も実施。
	1年初級（文法） 通年授業 週3回（文法2コマ+会話1コマ）の授業の2回を担当 教科書：『アトリエ・フランセ』（朝日出版社）	21名	授業方法は同上 秋学期は、オンデマンド中心だが、対面授業やzoom授業も実施。 定期テスト（中間・期末）は対面授業時に実施。
	1年初級 半期授業×2 週2回の授業をすべて担当 教科書：『ズーム！』（駿河台出版社）	31名	PPT音声付教材は学部共通のもの、授業方法は同上 秋学期は、学部共通教材はなくなり、各教員が作成。 授業はオンデマンド中心だが、対面授業やzoom授業も実施。
	1年上級（作文） 通年授業 週3回（講読1+作文1+会話1）の授業の1回を担当 自作のプリント教材（語彙・作文問題、ニュースの聞き取りなど）	5名	オンデマンド方式（1コマ90分の学習時間を想定） フランス語の学習習慣がついており、モチベーションも高いクラスなので、多彩な学習課題を配布し、自学を促すように工夫 PPT音声付教材（20分程度）とWordプリント（教材）を大学独自のLMSを通じて配信・配布 課題は毎回Word形式で提出、添削して次週までに返却 単に問題を解くだけではなく、仏訳演習で気づいたことなども書いて提出 秋学期は、オンデマンド中心だが、対面授業やzoom授業も実施。

C講師担当 (D、E大学)

	授業内容	人数	授業方法
D大学	2年 中級二外 (総合・前期) 週1回 教科書: 『クロワッサン2』 (朝日出版社)	5名	Zoom講義 従前の対面授業と同じ文法説明 (PPTにて) 練習問題 (White Boardに書き込んでもらう) CD音声によるシャドーイング練習、会話ペア練習
	1年 初級二外(コミュニケーション・前期) 週1回 (週1回文法の授業とセット) 教科書: 『プティットゥ コンヴェルサシオン	41名 20名	予習オンデマンド PPT音声動画(mp4、約10分) を Youtubeに配信 、同時にPPTのPDFと音声(mp3)をManaba folioに。 Zoom講義 45分 41名のクラスは2グループに分けて。CD音声シャドーイング、3~4人ずつの ブレイクアウトセッション 会話練習 課題 毎回 手書き解答の写真と発音の録音をManaba folioにて送信
E大学	1年 初級二外 (総合・前期) 週1回 教科書: 『パリーボルドー フランスの世界遺産と食文化』 (朝日出版社)	37名	予習オンデマンド PPT音声動画(mp4、約10分) 、PPTのPDFと音声(mp3)をGoogle classroomに Zoom講義 対面授業に近づけるべく、学生の発言を求める 授業は文法説明、Web音声シャドーイング 発音練習 3~4人ずつで ブレイクアウトセッションによる練習 課題 毎回 文法の小テストができないため、代替可能な程度の課題
B高校	1年 初級二外 45分授業 を2時間 3回×5クラス 3 回目はネイティブの先生と	30名× 5	PPTにて 課題 毎回 発音の録音を送信

D講師担当 (C高校)

	人数	授業方法
C高校	9名	<p>オンデマンド方式（資料配布型）→リアルタイム方式、対面授業</p> <ul style="list-style-type: none">・ 4～5月まではGoogle Classroomから、課題を配布、回収・ 解答や解説の資料もGoogle Classroomより配布・ 6月前半より分散登校が始まるも、登校日になかなか当たらなかったため Teams でリアルタイム型の授業を数回実施。授業時間は40分程度。・ 6月後半より教室での対面授業開始。
	1名 (本来は2名だが、 うち1名は留学中)	<p>オンデマンド方式（資料配布型）→リアルタイム方式、対面授業</p> <p>授業方式は同上</p>

サポート 試験、成績評価 苦勞した点

A講師 (A大学、B大学)

	サポート	試験、成績評価	苦勞した点
A大学	<ul style="list-style-type: none"> ・遠隔授業マニュアル送付あり ・分からないところは専任教師に問い合わせ 	<ul style="list-style-type: none"> ・通年授業のため、前期の成績評価はないが、後期成績評価の判断材料として、毎回の課題提出状況、確認テスト、前期復習課題テストから総合的に判断 	<ul style="list-style-type: none"> ・授業資料作成に多くの時間が必要 ・課題やアンケートへのコメント、確認テストの採点に時間がかかる ・頻繁な連絡事項の確認と学生からの問合せ殺到(→ 連絡時間の制限) ・LMS運用、システム把握に苦勞
B大学	<ul style="list-style-type: none"> ・遠隔授業マニュアル送付あり ・学生、教師のサポート窓口設置 ・パソコン購入推奨あり 	<ul style="list-style-type: none"> ・毎回の課題提出状況と最終授業内に実施したオーラルテスト+前期テスト課題から総合的に判断(テスト回のみ、全員カメラon) <p>オーラルテスト：Zoomのブレイクアウトルームを使用し、1対1で試験。1人2分で自己紹介、発音、動詞の活用をチェック</p> <p>前期テスト課題：残りの時間(45分)で取り組み、授業内に時間を決めて提出(教科書、ノート、辞書など参照可)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・授業準備に多くの時間が必要 ・Zoom時に学生のカメラがofのため、反応が分かりにくい →チャットでの質問や「手を挙げる」機能で対応 ・Zoomを使って90分授業を実施したので、目を酷使しないよう工夫

A講師 (A高校)

	高校のサポート	試験、成績評価	苦労した点
A高校	<ul style="list-style-type: none"> 遠隔授業に対応するためのレクチャーあり 専任教員のサポート：お互いが生徒になり練習 遠隔授業のためのiPadが貸与 	<ul style="list-style-type: none"> 高3のみ前期中間試験を教室での対面で実施。期末試験は7月からの登校開始により対面で実施。分散登校で密を避ける 前期成績は、課題提出状況・前期末試験から総合的に判断 	<ul style="list-style-type: none"> 授業準備やZoomやGoogle classroomなど、新しいシステムの使い方に慣れるのに多くの時間が必要 カメラはonにしているが、顔が隠れる生徒が多い。また、共有画面時に生徒の反応がわかりにくい 目を酷使しないよう工夫
A中学	<ul style="list-style-type: none"> 遠隔授業に対応するためのレクチャーあり 専任教員のサポート：お互いが生徒になり練習 遠隔授業のためのiPadが貸与（生徒は1人1台iPadの購入義務あり） 	<ul style="list-style-type: none"> 前期中間試験は実施せず、対面実施の期末試験や課題提出、授業中の発言などにより総合的に成績評価 	<ul style="list-style-type: none"> 授業準備やZoomやGoogle classroomなど、新しいシステムの使い方に慣れるのに多くの時間が必要 カメラはonにしているが、顔の隠れる生徒が多く、反応がわかりにくい 目を酷使しないよう工夫

B講師 (C大学)

	大学のサポート	試験、成績評価	苦労した点
C大学	<ul style="list-style-type: none">・遠隔授業マニュアルの送付あり・専任教員のサポート：教材作成方法やLMSの説明。共通教材の作成など。質問に対して、すぐに返信が届き、大変助かった。	<ul style="list-style-type: none">・全クラス、授業最終日に、前期期末課題実施（制限時間内に問題を解いて提出、教科書の参照可）・「持ち込み可」の課題ということで点差がつかない心配をしていたが、結果的に個人差あり。それは毎回の宿題の出来具合と概ね一致。・前期成績（半期授業のクラスのみ）は、課題提出状況・前期期末課題・自由提出課題（加対象）から総合的に判断	<ul style="list-style-type: none">・第1回の授業準備（授業方針や教材の形式を決めるのに約1カ月かかった）・教材の配信・配布に伴う煩瑣な設定作業・提出課題のチェックとフィードバック

C講師 (D、E大学)

	大学のサポート	試験、成績評価	苦労した点
D大学	<ul style="list-style-type: none"> ・遠隔授業マニュアルの送付あり ・オンラインによる「遠隔授業説明会」が行われた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・2年 中級二外 (総合・前期) 試験40分 Zoomのチャットから問題送付 読解和訳提出 ・1年 初級二外(コミュニケーション・前期) 試験10分 Zoomにて聞き取り 毎回の課題 (練習問題提出、発音録音)	<ul style="list-style-type: none"> ・授業準備に多くの時間が必要 ・課題やアンケートへのコメント、確認テストの採点に時間がかかる ・頻繁な連絡事項の確認と学生からの問合せ殺到 ・提出課題のチェックとフィードバック
E大学	<ul style="list-style-type: none"> ・先生方と数回のビデオ会議システムMeetでの練習に参加 ・web担当の先生への質問を数回行うことができた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・1年 初級二外 (総合・前期) 試験1時間 Zoomの画面共有から問題提示 毎回の課題 (練習問題提出、発音録音)	同上 <ul style="list-style-type: none"> ・Zoom時に学生のカメラがofのため、反応が分かりにくい →チャットでの質問や「手を挙げる」機能で対応

D講師 (C高校)

	高校のサポート	試験、成績評価	苦勞した点
C高校	<ul style="list-style-type: none">・遠隔授業に対応するためのレクチャーあり (Teams の使い方や Google Classroom の使い方などの講座がオンライン上で数回開かれた。)・専任教員のサポート：担当の専任とは連絡を取り合いながら、進められたため大きな問題はなかった。	<ul style="list-style-type: none">・中間試験はなく、期末試験は普段の日程より遅めではあったが教室にて実施・対面での授業時間が少なかったこともあり、試験問題は易しめに作成・前期成績は、課題提出状況・前期期末試験から総合的に判断	<ul style="list-style-type: none">・資料作成に普段よりは時間を割く必要があった・サーバーへの負担を減らし、安定した配信を行うために、生徒は基本カメラOFFのため、授業内容を理解しているのか把握しづらかった。 <p>⇒なるべく、大丈夫か、質問がないかななどの声掛けはするようにしたが、新学期が始まってお互い1度も顔を合わせていないこともあり、生徒側は遠慮がちな感じがした。</p>

非常勤講師の不満

- 授業準備だけでなく、費用的にもたいへんだった
- 専任が使えるものが講師は使えないということが多々あった
- ともかく情報が来ない。自力でオンライン講義の準備をせざるを得ない（一部の大学を除いて）
- それぞれの連絡がひっきりなしに入り、急を要するものもあったが、他の学校の授業をしていたりすると、なかなか返信も出来ず、連絡のやりとりに振り回された。

今後に向けて

- 非常勤講師からの要望
 - LMSの使い方講習会を学内で開いてほしい。
 - 同一科目担当者で、授業の進め方などの情報が共有できる場を作ってほしい。
- 情報共有の重要性 → 英語以外の外国語教育の情報共有
- JACTFLオンラインシンポジウム
 - 第3回 12月20日（日）15時から18時半
 - 第1回 7月、第2回 9月5日 に開催
 - <https://www.jactfl.or.jp>